

新能を前に市民能舞台

伝統芸能の
数々

県北10団体が熱演

延岡

ステージは、作曲家・箏曲家宮城道雄の業績を伝える活動する延岡宮城会がオープニングを飾り、荒城の月・21「春の海」を箏(こ)で演奏。また、ゆりかWEC学院・ゆりか児童館の子どもたちは仕舞「羽衣」田村・日国(宮崎県)が舞台の一部となる仕舞「謡」桜川「などを発表し、軽やかな舞を見せた。

のべおか天下一新能(12月、延岡城址)の二の丸広場の協賛行事として、第23回市民能舞台は9月21日、延岡市の延岡総合文化センター小ホールであった。今年は市文化遺産創立70周年を記念して開催。伝統芸能の継承に取り組み県北10団体が出演し、能楽や民謡、日本舞踊、津路、三味線など、この種古の成果を披露した。主催はNPO法人のべおか天下・市民交流機構。

1/2



オープニングを飾った延岡宮城会



ゆりかWEC学院ゆりか児童館



能楽林協会



西本宮に向かって練り歩く御神幸

勇壮に御神幸行列

高千穂

天岩戸神社で秋季大祭

高千穂町の天岩戸神社(佐藤水周宮司)で9月22、23日、秋季大祭「東本宮例祭」があった。台風17号が過ぎ去った23日は、呼び物の御神幸行列を一目見ようと地元の人たちや観光客らでにぎわった。

晴れ間が広がる中、御神幸は東本宮を出発。太鼓や鉦(かね)を響かせながら、台車に乗せられたつぎのこしや神楽、棒舞、臼太鼓などの隊列が勇壮に西本宮との間を往復した。

西本宮の旗所では「手力雄たからお」(細女(うずめ)「戸取(ことり)の神楽3番と棒術が奉納され、見物客が激かな舞と演武をじつりと鑑賞した。

この日は、奉賛行事として神話にちなんだ「岩戸投げ(豊投げ)大会」が予定されていたが、天候不良により中止となった。

延岡日本舞踊協会

マンガ「のべおか歴史事典」

延岡史談会が企画

鉾脈社から
発行へ――

1/2 作画 しいや・みつのりさん 旧石器時代から
現代まで描く

延岡市の延岡史談会（後藤博文会長）が、同市の歴史と偉人をまとめたマンガ「のべおか歴史事典」を発行する。作画は、同市出身のしいや・みつのり（権厚光見）さん（65）。9月27日に同市伊達町のギャラリーかわなかで、しいやさんと出版社の「鉾脈社」（宮崎市）を交えた初の会議があり、進捗（しんちょく）状況や印刷までのスケジュールなどを確認した。

しいやさんの「郷土に」思いを受け、同史談会が恩返ししたい」という企画。歴史理解を通して

古里への誇りや愛着を育むきっかけにしてみよう。同会の甲斐典明副会長を中心に昨年8月から準備を進めてきた。事典には旧石器時代から現代までの歴史を掲載。旧石器から弥生までが第1章、古墳から平安までが第2章など各時代をまとめた8章構成で、

「延岡市の成立と発展」織田信長と徳川家康のひ孫「日向御前」などの歴史や偉人を約50項目取り上げ、基本的に1項

各章は延岡、国内、世界の年表で始まり、その時代に起こった出来事や遺跡の場所を集約した地図で締めくくる流れとなっている。

目見開き2ページで解説。A5（148×21

0ミ）サイズ約150ページで、今年度までの完成を目指している。しいやさんは漫画家赤塚不二夫さんのフジオプロでチーフアシスタントを務め、30歳の時に独立。毎週土曜日、本紙3面で4コマ漫画とエッセーを連載しており、これまで

「マンガ・若山牧水」や「日本の歴史年表事典」（小学館）などの人物、歴史書も手掛けている。会議には後藤会長、甲斐副会長、甲斐盛豊副会長、しいやさん、鉾脈社編集部の藤本敦子部長が出席。監修、作画、出版の3者が内容、各項目の

タイトル、印刷までのスケジュール、原稿データをやり取りする手順などを確認した。

約20項目の原稿はほとんど仕上がっている状態で、しいやさんが見せると出席者はその完成度に感動し、出版を待ち遠しそつにしていた。

後藤会長は「漫画にしたことで分かりやすくなっている。多くの子どもに読んでもらい、延岡を好きになってもらいたい」としいやさんは「学校はもちろん、観光などさまざまな分野でも活用してもらえたら」と呼び掛けている。



制作途中の原稿



しいや・みつのりさん



会議では印刷までのスケジュール（9月27日、延岡市伊達町のギャラリーかわなか）を確認した